



低炭素杯2019でオーディエンス賞を受賞

＜常磐大学松原ゼミナール 2019年2月8日開催 カルッツかわさき＞

＜プレスリリース要約＞

茨城県地球温暖化防止活動推進センター

低炭素杯とは、環境省、文部科学省が後援し、低炭素杯実行委員会主催、地球温暖化防止全国ネット、(一財)セブン-イレブン記念財団が共催する、我が国最大のエコな取組を発表するプレゼン大会です。

全国の市民・企業・学校・自治体等の多様な取り組み紹介、地域や団体の特性に応じた個性的な温暖化防止の活動、取組のノウハウや情報を共有し、低炭素社会に向けて意欲を創出する「場」となることを目指して2011年から開催されています。低炭素杯2019には、全国から1,430団体が名乗りを上げ、有識者による厳しい審査を経て、学生部門6団体、ジュニアキッズ部門6団体、市民部門8団体、企業・自治体部門8団体の計28団体がファイナリストに選出されました。大会には、茨城県地球温暖化防止活動推進センターが主催した予選会(クールアースいばらき大会2018.8.30)で最優秀となった常磐大学松原ゼミが会場、当日会場したゲスト審査員による投票で最上位に贈られる「オーディエンス賞」の受賞に至りました。



受賞団体記念撮影の様子



植栽シーンでは こどもエコクラブが登場



小宮山 宏 実行委員長から表彰状が授与

＜低炭素杯2019主催者:低炭素杯実行委員会 以下共催等 団体＞



参加：全国1,430団体から応募 /うち、審査によって選出されたファイナリスト：28団体が出場

日時：平成31年2月8日 金曜日 最終選考プレゼン・表彰式 場所：カルッツかわさき (神奈川県川崎市)

表彰：環境大臣賞 (5件：グランプリ1件、金賞4件) /文部科学大臣賞 (2件)

ゲスト審査員投票によるオーディエンス賞 (2件) /企業団体賞 (8件) /審査委員特別賞 (1件)

<受賞内容>

水戸市中心部にある千波湖は、春から秋にかけてアオコの発生が後を絶たず、水質浄化を目的とした噴水や導水などの事業も今一步であった。そこで立ち上がったのが常磐大学松原ゼミ。昔のような湿地帯がなくなった湖に、水生植物を植えこみ、自然浄化と生物多様性を目指すため、2011年に設立された千波湖水質浄化推進協会（会長：櫻場誠二）の担い手として市民ビオトープ事業に携わっていった。

当事業は、茨城県地球温暖化防止活動推進センターをはじめ、ロータリークラブやライオンズクラブ、千波湖周辺で環境保全に取り組む逆川こどもエコクラブや水戸英宏中学校など18団体を巻き込んで2012年から開始。若き常磐大学の学生は市民をサポートする「DORO隊」となって、2か月前から基盤土作り、植物採取を経て、造成日には、子供たちのサポートを行いながら環境活動を行ってきた。

今では、毎年200人を超える子供たちが参加する一大イベントとなり、7年間で千波湖周囲3,000mの10%にあたる南岸300mの区間に湿地帯が復活。育った20,000本のヨシは、水質浄化と湿地再生による生物多様化が示されるとともに、1,430t/年のCO₂削減効果を得た。



ビオトープ植栽前の湿地基盤づくり



当日は200人以上の市民が参加



植栽されて成長したヨシ帯は延べ300mに



千波湖のカップも登場した寸劇の様子

<大会レポート>

常磐大学松原ゼミは、昨年8月に開催された茨城予選会「クールアースいばらき大会」主催：茨城県地球温暖化防止活動推進センターに出場して最優秀を受賞。その取り組みを低炭素杯事務局の審査会に提出しての選出となりました。当日は、茨城県内から13社及び茨城県地球温暖化防止活動推進員18名が応援に駆けつけるなど、低炭素杯の重みと県民の輪を実感しました。全国各地から選出されたファイナリストのプレゼンは、どれも素晴らしく、新たな発見や工夫など、当センターとしても大変参考になりました。

<プレス問い合わせ先>

★茨城県地球温暖化防止活動推進センター(一般社団法人茨城県環境管理協会) 事務局：担当 川島省二

★TEL029-248-7431 FAX029-240-1270 e-mail ibaonse@kankyokanri.or.jp